

## ガラス窓越しにわかること

朝の会を巡視するとき、各教室の出入り口のガラス窓から教室の様子を見ることを基本にしています。本当はじっくり腰を落ち着けて最初から最後まで見届けるべきでしょうが、窓から見るだけでも、ずいぶんいろいろなことがわかるものです。

ある学級の前を通った時です。担任の大きな笑い声が聞こえてきました。見ると、生徒たちも元氣よく手を挙げ、表情も和らいでいます。担任の笑いだけと生徒たちの元氣な挙手の原因はわかりませんが、私はそれだけで十分だと思昇太いました。

週の初めから、担任が苦虫をつぶしたような難しい顔をしていたら、生徒たちの表情が明るくなるはずがありませんし、生徒が暗い顔して下を向いていたら学級が明るくなるはずがありません。月曜日に担任がにこにこしていることで、生徒たちのブルーマンデー気分が解消されます。担任がリフレッシュを凶った土日の楽しかったできごとなどを話せば、自然と生徒たちにも笑顔が生まれてくることでしよう。

私がガラス窓から見る中心は、生徒たちの「机の上の様子」と「生徒たちの視線」です。この二つだけならガラス窓越しに見るだけで十分です。これらがそろっていない場合、「大丈夫かな」という心配が生まれてきます。

今朝巡視していると、先の二つがそろっていない教室がありました。一部の生徒の机上には、同じものが載っていました。広げられたワークです。朝の会が進んでいるにも関わらず、その生徒たちの視線はワークに落ちていたように見えました。

話を耳から聞きながら、目でワークを眺めて勉強しているのかもしれない。二月二十四日のメッセージにも書きましたが、「眺める勉強」はピント外れの学習法であり、学級でまとまって取り組むことを犠牲にしてまでやるべき意味のある勉強ではないと思います。

また、私が気付いているということは、当然仲間も気付いているということ。そういうところから不協和音が生まれたり、仲間同士の信頼関係に小さなひびが入ったりすると、私は長い教員経験から学びました。見落としがちな小さな事実でも、大きな影響力を持つ姿だと考えなければなりません。

今年度もあと二週間となりました。一年を通してつけた力が今発揮されなくてはなりません。誘惑の素を机上に置かない状態で会は進めるべきですし、今はそういう状態で進められる学級になっていなければなりません。そういう学級や、気付いて指示ができる司会者が今は目立つべき時ではないでしょうか。

解散を前にやるべきことはいろいろあるでしょうが、今は、仲間や担任と気持ちよく別れられるようにしたいものです。全体的な関係が、ガラス窓のように透明であるべきです。あなたの学級はいかがですか。

(三月十五日 記)